

三瓶火山軽石流堆積物層中の泥岩脈



ジオサイトの特徴やみどころ



写真1：軽石流堆積物層中に分布する泥岩脈。崖面に直交したり、斜交するものなど衝立上に種々あり規則性は認められない。

三瓶火山より約 20 km の下流に位置する J R 大田市駅周辺の駐車場沿いの崖面には、約 4.5 万年前に同火山から噴出し、延々と流下堆積した軽石流堆積物が露出しています(推定層厚 30 ~ 40m)。この堆積物中には、写真1に示すように、幅 0.3 ~ 0.5m 程度の泥岩が脈状に貫入しています。軽石流堆積物層直下の谷底堆積物や河川成堆積物中の粘性土が、軽石流堆積物の堆積後の地震や冷却作用によって発生した亀裂を通して、地表まで貫入したものではないかと考えられています。亀裂幅を約 40cm も押し広げる水平力を有する自然の力には大変驚かされます。

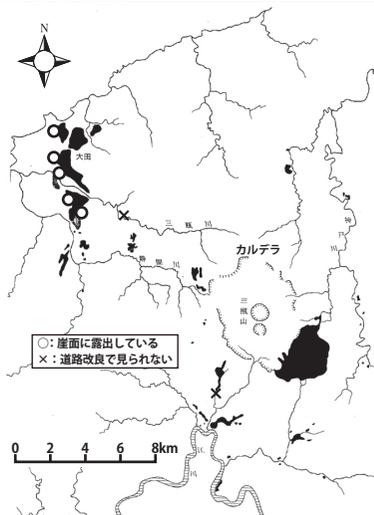


図1：軽石流堆積物の分布域(黒色部)と泥岩脈露出地点。群盲がなでた島根・三瓶火山(H20.8 松井整司)より。

所在地とアクセス方法

●島根県大田市大田町高禅寺地内の国道9号線沿い山側の崖面
→JR 大田市駅から徒歩 5 分

関連する見学場所と情報

大田市産業振興部、TEL 0854-82-1600

記念物指定など

指定なし



地質学的な意義

今では道路改良工事でコンクリートに覆われ、見られなくなった箇所があるものの(図2の×箇所)、大田市駅周辺部ではよく見られます(図2の○箇所)。泥岩脈の成因については、その脈の新鮮部の色合いによって下記のように考えられています。

1) 泥岩脈が青灰色を示すもの

図2の三瓶川沿いの×箇所で泥岩脈の根もとまで見られました。(今は見られません。)河川成の砂礫層中に含まれる粘土質の軟らかい土層が、軽石層の冷却作用によって発生した微細な亀裂面に圧入し亀裂面を押し広げ地表まで貫入したものと考えられます。

2) 泥岩脈が茶褐色を示すもの

図2の大田市駅近くの青果市場駐車場でよく見られますが、いずれも茶褐色を呈しており(写真2)、細粒土がほとんどですが(写真3)、一部細かな軽石を含んでいます。ここでは根元は見られませんが、旧河成層(現在は周囲に河道は位置していません)中の軟質な粘性土層が上位の軽石流の底面を取り込んで亀裂面に圧入したもの、またはこの軽石流より前の火砕流堆積物が同じく亀裂面に圧入したものではないかと考えられます。



写真2：青果市場裏の露頭



写真3：ここでの泥岩脈は細粒土からなる